

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 文学部におけるディプロマ・ポリシー（学位授与方針）の明文化に向けての検討を開始し、2011年度に公表する。	→「新中期計画：（教育）A-7」、「文学部の理念・目的・教育目標」	C
2. 各専修のカリキュラム方針・編成・内容・到達目標に関して、学内外者に理解しやすい説明文書を作成する。	→「新中期計画：（教育）A-1」、「文学部の理念・目的・教育目標」、「文学部開講授業内容」	C
3. 学部教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム間の関連性を図示し、履修心得とサイトで公表する。	→「文学部履修心得」、「学院ホームページ内『文学部授業内容』（ http://www.kwansei.ac.jp/Contents_3299_0_12_0_2.html ）」、「学院ホームページ内『専門教育科目のカリキュラム』（ http://www.kwansei.ac.jp/Contents_6270_0_12_0_2.html ）」	C
4. カリキュラム委員会の機能および職責を改定する。	→「文学部組織図」、「文学部内規」、「文学部カリキュラム委員会規定」	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

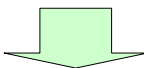
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.1.1	(方針) 文学部においては、2008年11月の教授会において、学部の理念・目的・教育目標は設定されているが、ディプロマ・ポリシーに関しては、検討、明文化が行われてはいなかったため、本学部においても、どのような方針で学士の学位を授与すべきであるのかを示す。 (現状説明) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の明文化作業の検討を、学部執行部会、学部委員会等で、時間をかけて行っていく方向性を確認した。
☆ 小項目6.1.2	(現状説明) 学位授与方針の明文化を受けての作業については、6.1.1と連動するため、未着手である。科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示に関しては、『文学部履修心得』において明示されており、毎年修正を行っている。
☆ 小項目6.1.3	カリキュラム等に関する諸方針は、教職員、学生には周知されており、今後わかりやすい形に改めて、学外へ公表する具体的な手順について、検討を開始した。
☆ 小項目6.1.4	カリキュラム全般にかかわる適切性に関しては、学部内で定期的にカリキュラム委員会を開催し、検討を行っている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
★小項目6.1.3	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の教職員への周知
小項目6.1.4	教育課程の編成・実施方針の適切性についての定期的検証
その他	



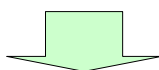
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	『文学部履修心得』の記述内容の精査と改定
★小項目6.1.3	ここ3年ほどの間に文学部に着任した新任教員への周知が必ずしも徹底しているとは言えないので、この点の周知をはかる。
小項目6.1.4	文学部カリキュラム委員会を通して、各専修個別の懸案、問題に関しても、学部全体で共有できるようにする。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.1.1	学位授与方針の明文化
小項目6.1.2	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
★小項目6.1.3	教育課程方針等の社会（学外）への公表
小項目6.1.4	学部全体の教育課程編成に関する理念的な検討
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.1.1	学部執行部において学位授与方針の文案を作成し、学部委員会、教授会で懇談、明文化をはかる。
小項目6.1.2	学位授与方針の明文化作業と平行させながら、学部全体、各専修のカリキュラム編成と学位授与方針との整合性をはかる。
★小項目6.1.3	従来からサイトを通して公表しているカリキュラムに関係する情報をさらに詳細にし、広く社会に周知する。
小項目6.1.4	カリキュラム委員会で検討される内容は、主としてカリキュラムに関する具体的な問題等であり、学部全体の教育課程編成に関する抽象的、理念的な側面については、十分な議論ができていないので、この部分の割合を増やしていくようにする。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)
---	---------------

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

【学外委員】

○6.1.1「ディプロマ・ポリシー」の策定は「時間をかけて行なう」とのことですが、慎重さが望まれるのは当然としても、可及的速やかに策定されないと、この評価項目に関すること全体が動きませんので、機敏な対応が望まれます。

○「効果が上がっている事項」「改善すべき事項」では、きめ細かな目配りがされていて、実質的なPDCAへの意欲が感じられ、評価できます。

【学内委員】

○学位授与方針を明文化し、それに基づく教育課程の編成・実施方針を明示し、それを学内外に知らせようとするのが構想されていることは評価できます。具体的な方策の実施については今後の問題ですので、それが実現するような努力を続けられることが望まれます。

○ディプロマ・ポリシーに時間をかけて検討することは優れていますが、その基本がないと学部全体、各専修のカリキュラム編成とディプロマ・ポリシーとの整合性に齟齬が出る可能性があります。早期の着手が望まれます。問題の把握はできていると評価できますので、早急に各問題に取り組むことが望まれます。

○学科、専修が多いので、各教育内容、カリキュラムの編成を社会へ周知する必要があります。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

Ⅴ. 本項目の評価指標

＜全学的な指標＞

6.1.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.1.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.1.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.1.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの授業科目開設数
6.1.0.S5	必修・選択ごとの開設授業科目数
6.1.0.S6	系列別卒業必要単位数

＜個別的な指標＞
